子ども安全読本

ミオちゃんの おるすばん

目次

一　でんわ　一ページ

二　にもつをとどけにきたおじさん　五ページ

三　ミオちゃんをまもれ！　九ページ

四　おじいさんとおばあさん　十七ページ

はじめに

このおはなしは、ミオちゃんという女の子が、おうちでひとりでおるすばんをしているときにわるいおじさんがたずねてきて、つれていかれそうになってしまうというおはなしです。でも、だいじょうぶ！ミオちゃんは、子ねこたちと力を合わせて、わるいおじさんをやっつけます。

このおはなしをよんで、

◆　ミオちゃんが、どうしてわるいおじさんにつれていかれそうになってしまったのか

◆　ミオちゃんが、もしあなただったらどうしたか

◆　おうちでひとりでおるすばんをするときには、どんなことに気をつけたらよいか

などについて、かんがえてみましょう。

一　でんわ

ミオちゃんは、小学校の一年生です。きょうも、おともだちのサキちゃんとタツヤくんと三人で、なかよく学校からかえってきました。ミオちゃんがおうちにつくと、おかあさんはおかいものに出かけました。

おかあさんは出かけるとき、「でんわがなってもすぐに出てはだめよ。るすばんでんわにしておくからね。あいての声をきいてみて、しらない人だったらぜったいに出てはだめよ。それとだれかがたずねてきても、すぐにげんかんのとびらをあけてはだめよ。とびらには、のぞきまどがついているでしょう？だれかがたずねてきたら、まず、のぞきまどからあいてのかおを見てみるの。しらない人だったら、ぜったいにとびらをあけてはだめよ。わるい人かもしれないからね。」とミオちゃんにいいました。ミオちゃんは「うん。」と大きくうなづきました。

そんなわけで、ミオちゃんは今、ひとりでおるすばんです。でも、さみしくなんかありません。ミオちゃんのおうちには、白い子ねこが二ひきとちゃ色の子ねこが一ぴきいるからです。白い子ねこはテンちゃんとチョビ、ちゃ色の子ねこはチャチャと

※　気づいたことをかいてみましょう。

いいます。テンちゃんは、あたまのてっぺんに灰色の毛がちょっとだけまじっているのでテンちゃんです。チョビは、おはなの下がちょびひげのようにくろいのでチョビです。チャチャは体ぜんたいがちゃ色なのでチャチャです。ミオちゃんは今、すわって絵本をよんでいます。ミオちゃんのひざの上にはテンちゃんがまるくなってねています。

チョビとチャチャは、ミオちゃんのまわりを走りまわってあそんでいます。

　プルルルルー。しばらくするとでんわがなりました。おかあさんが、出かけるときにるすばんでんわにしておいてくれたので、ミオちゃんは、おかあさんにいわれたとおり、すぐにはでんわに出ませんでした。そのうち、るすばんでんわから、「おにもつをおとどけにうかがいたいのですが、どなたかいらっしゃいますか?」と男の人の声がきこえてきました。ミオちゃんは、おにもつをとどけてくれるおじさんだとおもい、でんわに出ることにしました。「もしもし。」ミオちゃんがでんわに出ると、「おうちの人はいませんか?」とおじさんがやさしい声でききいてきました。「はい、おかあさんはおかいものにいっておるすです。」とミオちゃんがこたえました。するとおじさんが「それ

じゃあ今、おじょうちゃんがひとりでおるすばんをしているの？」とききました。ミオちゃんが「はい。」とこたえると、おじさんは、「えらいね。ひとりでおるすばんができるんだね。」とほめてくれました。

二　にもつをとどけにきたおじさん

しばらくすると、げんかんのベルがピンポーンと一かいなりました。だれかがたずねてきたようです。ミオちゃんは、おかあさんから、「だれかがたずねてきたら、まず、のぞきまどからあいてのかおを見てみるのよ。」といわれて

いたことをおもいだしました。「のぞきまど、のぞきまど……。」ミオちゃんは、そういいながらげんかんのところまでいきました。でも、のぞきまどのいちがたかいので、のぞくことができません。ミオちゃんは、せのびをしてみました。でも、やっぱりのぞくことができません。ピンポーン、ピンポーン。げんかんのベルがこんどは二かいなりました。ミオちゃんは、おへやの中からおいすをもってきて、のぞきまどの下におきました。ピンポーン、ピンポーン、ピンポーン。げんかんのベルが、こんどは三かいなりました。ミオちゃんは、おいすの上にのぼりました。こんどはだいじょうぶで

す。ミオちゃんは、のぞきまどにそっとかおをちかづけて、だれがたずねてきたのか見(み)てみました。すると、げんかんのまえには、青(あお)いぼうしをかぶり、青(あお)いふくをきて、はこのようなものをもったおじさんが立(た)っていました。おじさんは、げんかんのとびらにかおをちかづけました。そして、「こんにちわ、さっきでんわしたおじさんだよ。おじょうちゃん、おるすばんしてるんでしょう？おにもつをとどけにきたんだ。あけてくれないかな？」といいました。ミオちゃんは、さっきのでんわのおじさんだ、わたしをほめてくれたおじさんだ、おにもつをとどけにきてくれ

たんだとおもってあんしんしました。ミオちゃんは、「はあい。」とおへんじをしてげんかんのカギをあけました。ガチャッと音(おと)がして、げんかんのとびらがひらきました。おじさんが、ニコニコとやさしそうに目(め)をほそめながらわらいました。

三　ミオちゃんをまもれ！

「おかあさんは、まだかえってこないの？」とおじさんがききました。ミオちゃんが「はい。」とこたえました。おじさんは、「ひとりでおるすばんができてえらいね。」といいながらおうちの中にはいってくると、ミオちゃんのかおをじっとみながらげんかんのとびらをしめました。

そして、ミオちゃんにこういいました。「おじさんね、まだたくさんのおにもつがあってね、ひとりじゃあはこびきれないんだ。おじょうちゃん、おにもつ

をはこぶのをてつだってくれないかな。てつだってくれたら、ごほうびに絵本をかってあげるから。」ミオちゃんは、わたしのことをほめてくれたし、やさしそうなおじさんだから、おてつだいしてあげようかなとおもいました。でも、おかあさんがかえってきて、わたしがいなかったらきっとしんぱいするにちがいないともおもいました。

ミオちゃんは、「おじさん、ごめんなさい。わたし、おるすばんをしていなくちゃいけないの。」といいました。すると、おじさんが、「おにもつをはこぶのは、すぐおわるから。おかあさんがかえってくるまえに、

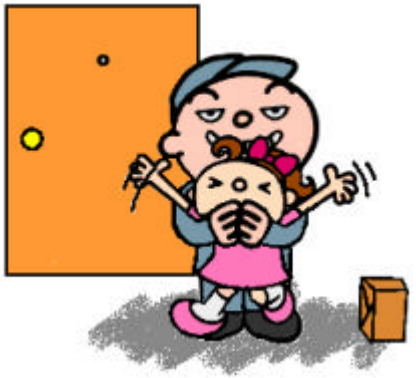
おじさんがおじょうちゃんをおうちまでおくってきてあげるから。」といいました。「でも……。」ミオちゃんは、どうしてよいのかわからず、こまってしまいました。「おじょうちゃん、おねがいだよ。おじさんもこまっているんだ。おてつだいしてよ。」とおじさんがいいました。

「おじさん、ごめんなさい。

わたし、やっぱりおるすばんをしてる。」とミオちゃんがこたえました。おじさんが、「そう……、しかたがないね。それじゃあ、おかあさんがかえってきたら、このおにもつをおかあさんにわたして。」といいながら、ミオちゃんの目のまえに、はこのようなものをさしだしてきました。

ミオちゃんは、

「はい。」とおへんじをして、おじさんがさしだしたはこのようなものをうけとろうとしました。そのときです。おじさんが、いきなりつよい力でミオちゃんのうでをひっぱり、ミオちゃんをうしろからはがいじめにして口をふさいできたのです。あっというまのできごとでした。ミオちゃんはおもいました。「このおじさんは、おにもつをはこんできてくれるおじさんなんかじゃない。わるいおじさんなんだ。どうしよう、このままじゃあつれていかれちゃう……。」ミオちゃんは、大ごえで「たすけてー！」とさけぼうとしました。でも、おじさんが



つよい力でミオちゃんの口をふさいでいるので、「うー、うー。」としかこえがだせません。ミオちゃんは、手と足をバタバタさせておじさんからにげようとしました。でも、おじさんの力がつよいので、どうにもなりません。いつのまにかテンちゃんとチョビとチャチャがミオちゃんの足もとにきて、「ふー！ふー！」といいながらおじさんのかおをにらみつけています。テンちゃんは、

チョビとチャチャのほうをふりかえると「にゃーん！にゃーん！」と二かい大きなこえでなきました。テンちゃんは、チョビとチャチャに「ミオちゃんをまもれ！」とさけんだのです。テンちゃんが、おじさんの右足にかみつきました。チョビは、おじさんの左足にかみつきました。ミオちゃんも勇気をだして、口をふさいでいるおじさんの手におもいきりかみつきました。おじさんは、「あいたたたー！」とさけんでミオちゃんをはなしたあと、げんかんにしりもちをつきました。ミオちゃんが、大きなこえで「たすけてー」とさけびました。チャチャ

はおじさんのかおの上にとびのり、おじさんのかおをなんどもひっかきました。おじさんは、また「あいたたたー！」とさけぶと、げんかんのとびらをあけて、あわててにげていきました。ミオちゃんは、ほっとして、きゅうに体の力がぬけてしまいました。でも、まだこわくてこわくてたまりません。「えーん。」となきだしてしまいました。

四　おじいさんとおばあさん

ミオちゃんは、今あったできごとをはやくおかあさんにはなさなければとおもいました。でも、おかあさんは、まだおかいものからかえってきません。そうだ、おじいさんとおばあさんにはなそう……、ミオちゃんはそうおもいました。ミオちゃんのおうちのとなりには、ミオちゃんと三びきの子ねこたちをかわいがってくれるやさしいおじいさんとおばあさんがすんでいます。ミオちゃんは、このおじいさんとおばあさんに今あったできごとをはなすことにしたのです。テンちゃんとチョビとチャチャもミオちゃ

んのあとをついていきました。おじいさんとおばあさんは、えんがわになかよくならんで、ひなたぼっこをしていました。「おじいさん、おばあさん……。」ミオちゃんは、そこまでいうと、また「えーん。」となき出してしまいました。「おやおや、ミオちゃんどうしたんだい？」とおばあさんがやさしくききました。「ミオちゃん、こっちにおいで。」とおじいさんがやさしくいいました。おじいさんは、ミオちゃんをよこにすわらせると、ミオちゃんのあたまをそっとなでながら、「なにかあったのかい？だいじょうぶだからおじいちゃんとおばあちゃんにはなしてごらん。」とやさしくいいました。ミオちゃんは、

わるいおじさんがおうちにやってきて、こわいめにあったこと、わるいおじさんの手にかみついてたすかったことなどをおじいさんとおばあさんにはなしました。おじいさんは、ミオちゃんのはなしをききおわると、すぐにけいさつに１１０ばんつうほうしてくれました。そして、「ミオちゃん、これからは、ひとりでおるすばんをするのがこわかったら、おじいちゃんのおうちにおいで。おじいちゃんとおばあちゃんは、いつでもおうちにいるからね。」といってくれました。それをきいて、ミオちゃんはやっとげんきになりました。そして、「はい。おじいさん、おばあさんありがとう。」とニッコリわらって

こたえました。テンちゃんは、ミオちゃんのひざの上で、あんしんしたようにミオちゃんのかおをみあげています。チョビとチャチャは、げんきにおにわを走りまわっています。「ミオちゃんがおばあちゃんのおうちにくるときは、テンちゃんとチョビとチャチャもいっしょにつれておいで。」と、おばあさんがニッコリわらってミオちゃんにいいました。「はい。」とミオちゃんがげんきにこたえました。「にゃーん。」三匹の子ねこたちが、うれしそうに声をそろえてなきました。

おわり

作成　平成十八年五月

静岡県警察本部生活安全企画課

（注）この子ども安全読本は、県警ホームページの「子ども安全情報」のコーナーから出力することができます。